

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

事務局: 熊本駅前矯正歯科クリニック 上村 裕希
〒860-0047 熊本県熊本市西区春日 5-2-1
TEL 096-342-4148 FAX 096-342-5095
Email: kumamoto-ekimae-ko@cure.ocn.ne.jp

令和7年度 (春季)



令和6年度後期熊本矯正歯科研究会 お別れ講演会 (令和6年11月9日) 熊本和数奇司館にて

会長挨拶

熊本矯正歯科研究会会長

きょうごく矯正歯科・小児歯科クリニック 京極和彦



春の訪れを感じる季節となりました。皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

日頃より、熊本矯正歯科研究会の活動にご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

新年度を迎えるにあたり、引き続きより質の高い矯正治療の実践を目指し、会員同士の学びと交流の場をさらに充実させることを目標として参りたいと思っております。

今年度は5月31日に、出来田先生による会員発表と、熊本市立熊本市市民病院 歯科口腔外科部長であられる太田和俊先生にご講演を賜ります。顎変形症手術に関する貴重なお話が聞ける機会ですので是非多くの会員の方のご参加をお待ちしています。

また、11月には熊本矯正歯科研究会70周年記念講演会・記念祝賀会も控えています。普段では中々お呼び出

来ない先生方の講演会も予定しております。

これからも、皆様のご協力をお願い申し上げるとともに、引き続き研究会へのご参加を心よりお待ちしております。季節の変わり目、お忙しい時期かとは存じますが、どうぞお体にはお気をつけてお過ごしください。

令和7年度 執行部

会長：京極和彦

副会長：久永豊 山本資晴

事務局：上村裕希

会計：竹口敦士

学術：青木潤也 太田文隆

ホームページ：近藤俊輔

広報：鬼塚研志

以上、理事

監事：犬童寛治 山部耕一郎

令和6年度後期の主な活動報告

理事会

令和6年9月13日に第五回理事会・第四回70周年式典準備委員会（リモート形式）を開催いたしました。

令和6年10月18日に第六回理事会・第五回70周年式典準備委員会（リモート形式）を開催いたしました。

令和7年1月10日に第七回理事会・第六回70周年式典準備委員会（対面形式）を開催いたしました。

令和7年3月10日に第八回理事会・第七回70周年式典準備委員会（リモート形式）を開催いたしました。

令和6年度後期熊本矯正歯科研究会 池上富雄先生お別れ講演会

令和6年11月9日（土）に「熊本和数奇司館」にて池上富雄先生お別れ講演会が行われました。



『矯正専門医としての40年を振り返って』という演題でご講演して頂きました。九州歯科大学ご卒業、鶴見大学歯学部矯正科にて研修後、米国 Tufts 大学矯正科にて Master of science degree を取得された経緯を当時の写真を交えお話されました。

帰国後、熊本市にて開業され、矯正専門医として40年間診療されました。そのなかで特に困難な症例や、対応に苦慮された症例を多数の写真を示し、解説されました。中でも一番苦勞された症例として、上顎犬歯の牽引がうまく奏功しなかったケースが印象的でした。複数の先生に脱臼などを依頼しながら大変なご苦勞をされましたが、最終的に患者さんの満足される結果を達成されていました。大変勉強になりました。この度は貴重なご講演誠にありがとうございました。

令和6年度後期熊本矯正歯科研究会 懇親会

令和6年11月9日（土）に「熊本和数奇司館」にて講演会後に懇親会が行われました。

伊東隆三先生によるご挨拶、山部耕一郎先生の乾杯により開始され、皆様楽しいひと時を過ごされていました。最後は池上富雄先生のご挨拶、渡辺猛士先生の万歳三唱にて当会員のご活躍とご多幸をお祈りし終了いたしました。



今後の主な活動予定

令和7年度前期熊本矯正歯科研究会 総会・会員発表・特別講演会・懇親会

令和7年5月31日（土）場所「アークホテル熊本城前」にて、総会 17:00～、会員発表 17:30～
特別講演会 18:00～、懇親会 19:30～を予定しております。

【会員発表】

演者 出来田 雅人先生（熊本市中央区開業）

演題 「熊本で矯正歯科を開業するまでとこれから」



略歴

1984年	熊本市生まれ（現在40歳）
2000年	水俣第一中学校卒業
2003年	熊本マリスト学園高校卒業
2010年	九州歯科大学卒業
2010-11年	国立病院機構熊本医療センター研修医
2011-12年	一般歯科勤務
2013-17年	九州大学大学院矯正歯科
2017-19年	九州大学病院矯正歯科 医員
2019-22年	安永矯正歯科医院（福岡市）勤務
2024年	できた矯正歯科開業

抄録

四半世紀前、水俣でのんびりと過ごしていた中学生の自分に「将来、歯医者になっているよ」と伝えたら、さほど驚かないかもしれませんが、けれど、「熊本市内で矯正歯科専門のクリニックを開業しているよ」と言ったら、きっと驚くことでしょう。

紆余曲折を経て、一般的な歯科医師の道とは異なるキャリアを歩んできましたが、「万里一空」の精神を胸に、日々研鑽を積んでまいりました。本発表では、矯正歯科を開業するまでの道のりを振り返るとともに、現在の仕事内容や今後の目標についてお話しします。

【特別講演会】

演者 太田 和俊先生（熊本市民病院歯科口腔外科）

演題 「顎変形症手術の合併症、偶発症について」



資格

医学博士
熊本大学医学部 臨床教授
日本口腔外科学会 専門医・指導医
日本口腔科学会 認定医・指導医
日本有病者歯科医療学会
専門医・指導医
口腔ケア学会 評議員
日本がん治療認定機構 認定医
日本顎関節学会 専門医

略歴

1986年 青雲高等学校 卒業
1992年 鹿児島大学歯学部 卒業
1992年 宇治歯科医院 勤務
1994年 太田歯科医院 勤務
1996年 熊本大学歯科口腔外科 医員
2001年 熊本大学医学薬学研究部 顎口腔病態学 助手
2011年 熊本大学医学部附属病院 歯科口腔外科 講師
2013年 熊本市立熊本市民病院 歯科口腔外科部長

抄録

顎変形症は上下顎骨の大きさや形、位置などの異常や上下顎間関係の異常などによって生じる形態異常や咬合異常を来す疾患と定義されています。軽度の場合は歯科矯正治療のみで対処可能ですが、顎骨自体に変形が生じていたり、上下顎骨のバランスが悪い場合には手術適応になることが多いと考えられます。そのため顎変形症手術は機能的な正常咬合の確立や顎間関係の改善を目的としておこないますが、硬組織や軟組織の不調和改善や審美的な改善も得られる利点があります。近年では顔面の審美性に対する改善欲求の高まりから後者の審美的な面で顎変形症手術を望む患者さんが増えてきています。

一方で顎変形手術の術野周囲には重要な血管や神経が存在し気道の一部を術野としているため、軽い合併症から重大な事故が起こる可能性がある手術でもあります。そのため手術を前提とした顎変形症治療を行う場合には十分なインフォームド・コンセントを得た上で治療を開始することが重要と考えられます。治療法に選択肢がある場合にはそれぞれの治療法の予測される結果をふまえて利点と欠点を説明し、患者さん自身が十分理解した上でインフォームドチョイスすることがトラブルを防ぐ面においても大切だと思います。

今回は顎変形症手術で起こりうる合併症や偶発症について考え、われわれが患者説明の際に注意している点や手術の際に気をつけて行っていることなどについて供覧したいと思います。今後の先生方の顎変形症治療の立案や患者説明の際にお役に立ていただければ幸いです。

お知らせ

熊本矯正歯科研究会のホームページがリニューアルしました。是非ご覧ください。

(編集：広報担当理事 鬼塚研志)

熊矯ホームページは、 <http://kumakyouseiken.com/> 会則閲覧パスワード：kos2025

熊本矯正歯科研究会のニューズレターはホームページからもご覧できます。是非ご覧くださいませ。